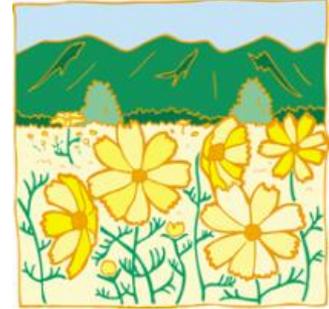


社会保険労務士事務所

# 金沢ロームオフィス通信

社会保険労務士法人 金沢ロームオフィス  
 連絡先：〒920-0802 石川県金沢市三池町119番地4  
 TEL：076-225-3803 FAX：076-225-3804  
 E-mail：info@sharoshiman.com



## 石川県の最低賃金 984 円へ

石川県内の最低賃金の時給は10月5日から51円(5.46%)引き上げ、過去最高の984円となります。なお、石川県以外の事業所は、各地域の最低賃金と、発効日を必ずご確認ください。

### ◆最低賃金額との比較方法

1. 時間給の場合：時間給 $\geq$ 984円
2. 日給の場合：日給 $\div$ 1日の平均所定労働時間 $\geq$ 984円
3. 月給の場合：月給 $\div$ 1か月の平均所定労働時間 $\geq$ 984円
4. 上記1～3が組み合わさっている場合：例えば、基本給が日給で各手当が月給の場合
  - ①基本給(日給) $\rightarrow$ 2の計算で時間額を出す
  - ②各手当(月給) $\rightarrow$ 3の計算で時間額を出す
  - ③①と②を合計した額 $\geq$ 984円

## マイナ保険証への移行に伴う対応について

### ◆9月9日から「資格情報のお知らせ」送付開始

12月2日以降、健康保険証がマイナ保険証へと移行します。協会けんぽでは、9月9日から既加入者に対する「資格情報のお知らせ」の送付を行っています。

この「資格情報のお知らせ」は、令和6年12月から健康保険の各種給付金等の申請に必要な健康保険の記号・番号の確認等に用いるもので、一部は被保険者が携帯しやすいよう切り取って利用可能なレイアウトの紙製カードとなっています。

特定記録郵便で会社に送付されてきますので、各被保険者に配付等する必要があります。なお、12月2日以降の新規加入者については、資格取得時に送付されてくることとなります。

### ◆従来の被保険者証の扱い

マイナ保険証に移行した後も、現行の保険証がすぐに使えなくなるわけではありません。そのため、令和7年12月1日までに退職する従業員からは、従来どおり保険証を返納してもらう必要があります。令和7年12月2日以降は、被保険者による自己破棄も可能となりますので、返納してもらわなくても構いません。

### ◆マイナ保険証を持っていない加入者への「資格確認書」の発行

新規加入者については、12月2日以降、資格取得届などによる本人からの申請に基づき、会社を経由してマイナ保険証を持っていない加入者に発行されます。

既存の加入者については、令和7年12月2日までに協会けんぽが必要と判断した人に対して発行されます。

なお、資格確認書の取扱いについても、従来の被保険者同様、有効期限内に退職した場合、会社に返納してもらう必要がありますので退職手続時にあわせて回収しましょう。

## マイナ免許証 来年3月から開始

警察庁は12日、マイナンバーカードと運転免許証を一体化した「マイナ免許証」を来年3月24日に開始する方針と発表しました。切替は任意で、従来の免許証は引き続き利用・更新で

きますが、マイナ免許証があれば、住所変更時の警察への届出が不要になり、自治体だけの手続きで済むほか、更新時の講習をオンラインで受講できるようにします。免許証の取得や更新、更新時講習にかかる手数料も見直す方針です。

### 厚労省・国交省「建設業の人材確保・育成に向けた取組」～令和7年度予算概算要求の概要

厚労省・国交省は9月2日、「令和7年度予算概算要求の概要」を公表し、建設業の人材確保・育成に多角的に取り組んでいく方針を示しました。

両省は、建設業の技能者のうち約4分の1を60歳以上が占める現状等を踏まえ、特に若者・女性の定着促進等に重点を置き、処遇改善や働き方改革などを一体として進め、人材確保・育成を進めていくことが重要としたうえで、これまでに続き連携した取組みを促進することとしています。

#### ◆取組みと概算要求の概要

この取組みにかかる両省の予算は、以下の3つの重点事項で取りまとめられています。

- ① 人材確保
- ② 人材育成
- ③ 魅力ある職場づくり

①については、建設業への入職や定着を促すための施策として、国交省では働き方改革等にかかわる施策や実態調査の実施を、厚労省では建設キャリアアップシステム\*等活用促進コース(仮称)創設等を通じた助成金支援やマッチング支援などを、それぞれ継続・拡充していくとしています。ほかにも、例えば厚労省は②については職業訓練の実施、③については働き方改革推進支援助成金による支援・一人親方等の安全衛生対策支援事業などを引き続き実施していくとしています。

人手不足や、いわゆる建設業における2024年問題など、建設業を取り巻く状況は深刻化しています。こうした状況をうけ、政府としても各種取組みを推進していくことと思われます。

※ 建設キャリアアップシステム:建設技能者の処遇改善をめざし国交省と建設業団体が連携して推進している、技能者の資格や就業履歴等を登録・蓄積し能力評価につなげる取組み。

【厚生労働省「建設業の人材確保・育成に向けた取組を進めていきます～厚生労働省・国土交通省の令和7年度予算概算要求の概要～】

[https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage\\_42550.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_42550.html)

【国土交通省「建設キャリアアップシステム 国土交通省ポータルサイト」】

[https://www.mlit.go.jp/totikensangyo/const/totikensangyo\\_const\\_fr2\\_000033.html](https://www.mlit.go.jp/totikensangyo/const/totikensangyo_const_fr2_000033.html)

### 労働者死傷病報告、定期健康診断結果報告などの電子申請が原則義務化(令和7年1月～) ◆施行待ちの改正

労働安全衛生規則の改正により、令和7年1月1日から、労働安全衛生関係の一部の手続について、電子申請が原則義務化されます。対象となる手続を確認しておきましょう。

#### ——— 令和7年1月から電子申請が原則義務化される労働安全衛生関係の手続 ———

- 労働者死傷病報告
- 総括安全衛生管理者/安全管理者/衛生管理者/産業医の選任報告
- 定期健康診断結果報告
- 心理的な負担の程度を把握するための検査結果等報告
- 有害な業務に係る歯科健康診断結果報告
- 有機溶剤等健康診断結果報告
- じん肺健康管理実施状況報告

### 高齢者 過去最多 3,625 万人

総務省は15日、65歳以上の高齢者の推計人口を発表しました。前年比2万人増の3,625万人、総人口に占める割合も同0.2ポイント上昇して29.3%となり、いずれも過去最高を記録しました。2023年の高齢者の就業者数も914万人と20年連続で増加し、過去最多を更新しました。